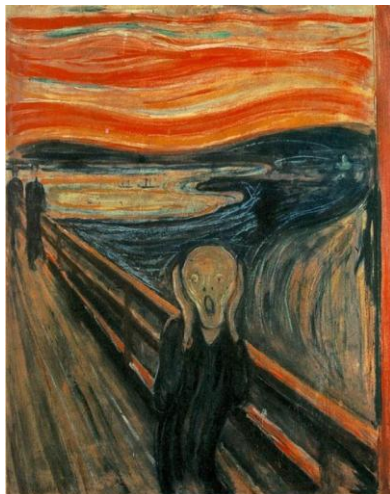


私的絵画百選②



エドヴァルド・ムンク
「叫び」Skrik(ノルウェー語)

Edvard Munch
油彩 91 cm×73.5 cm
1893 年制作
オスロ国立美術館所蔵

デフォルメされた人物の表情はおびえたように見える。目を見開き、口を大きく開けているが、しかし、決して叫んでいるようには見えない。耳をふさぎ、叫ぶこともできない状況にあるようだ。予期せぬ出来事を体験した一瞬の表情は耳を塞ぐ人物には顕著だが、後方の男女のシルエットからは驚きの動きを感知することはできない。

過去の体験に影響される現在の心理的背景は人によって異なる。同じ現象を見ても、驚きは人により強くも弱くも現れる。母を5歳で亡くし、思春期に姉の死に直面したムンクの不安が背景にあるのだろうか。

それにしても人物は何の叫びを聞いたのだろう。「・・・空が血の赤色に変わり、・・・炎の舌と血とが青黒いフィヨルドと町並みに被さるようであった。・・・そして、私は自然を貫く果てしない叫びを聞いた。・・・」とムンクの日記に綴られていると聞く。

昨年は、御嶽山の噴火をはじめ、日本でも火山活動の活発化が話題となった。ムンクの生きた時代、一説によれば、史上最悪の火山噴火が発生している。インドネシアで1883年に発生し、3万6千人以上の犠牲者を出したクラカトウ火山

の爆発をムンクも聞いたと言われている。ジャワ島とスマトラ島の間に位置していた海峡で火山の大噴火は起きた。噴煙の高さは38000m。爆発音は4776 km先まで届き、人間が遠く離れた場所で発生した音を直接耳で聞いた最長距離であったと言われている。その衝撃波は15日間かけて地球を7周し、火山灰は成層圏に達して地球を覆い数年間世界の気温が下がったといわれている。

余りにも有名なこの絵画は、強烈な印象から、パロディ作品に仕立て上げられることも多い。叫びという作品は1枚ではなく、同じ構図の叫びと呼ばれる作品はテンペラ画、パステル、リトグラフなど5作品がある。この油彩は盗難にあったことでも知られている。またパステルは2012年絵画のニューヨーク、サザビーズでの競売落札価格として、日本円で96億円の史上最高値を付けたことでも話題を呼んだことがある。いろいろな意味で狙われる絵でもある。

自然の驚異を感じずにはいられない人間世界だが、幻覚、幻視もまた画家にとっての真実となる!? ようだ。 <池田桂子>



池田総合特許法律事務所 ニュースレター

～新春だより～
平成27年1月 第5号

～ 謹賀新年 ～

明けましておめでとうございます。昨年は青色ダイオードに関する日本人研究者のノーベル物理学賞受賞や小惑星探査機「はやぶさ2」の打ち上げ成功など明るい話題もありましたが、御嶽山の噴火や広島市の都市災害等もありました。新しい年を無事迎えられることは、当たり前のようにみえても、昨今災害多いことを目の当たりにしますと、あらためて感謝の思いを感じないではいられません。

さて、平成27年は、第二次世界大戦後70年の節目の年に当たります。平和で安心して暮らせることの「当たり前」が、簡単に崩れていかないように、一人一人の生活の中に改めて平和への思いを定着し根強く維持できるような仕組み作りが必要です。わずか103条の憲法が私たちの生活を守りこれまでの豊かさを築いてきたことを確認したいと思います。また子どもたちに伝えていきたいと考えます。

この頃感じていることですが、デジタル時代の進行により情報の伝わる速さが急激にスピードアップし、その量も飛躍的に増大し（この間10年で400倍の情報量とも言われています。）、変化への対応を企業も個人も迫られているように思います。デジタル情報が溢れる中で、情報の価値を正しく判断するには訓練が必要です。また、健全な思考をする人もいて、上っ面な情報はしばしば断罪されることも、まま、あります。そういう意味では、言葉の持つ重みが増している時代でもあります。誰でもアクセスしやすいデジタル情報には、やさしさと攻撃性が表裏に位置していることもあるようです。

皆様は、今年の自分の抱負を、そして自分の夢を、どんな言葉で表現されますか。楽しい夢を楽しい言葉で語り合いたいものです。今年もどうぞよろしくお願いいたします。 <池田桂子>

はじめに

ニュースレター第5号（新春だより）をお届けします。皆様のご意見、ご質問、ご感想等を当事務所まで頂けると助かります。皆様のお役に立てる情報を提供したいと思いますので、ご意見・疑問もご遠慮なく、当事務所（FAX052-684-6291）までお寄せください。

相談予約方法

下記電話番号にてご予約ください。無料相談会も行っておりますので、お気軽にご相談ください。

☎ 052-684-6290 受付時間9:00AM～5:30PM

INDEX

- はじめに
- 相談予約方法
- 事務所からのお知らせ
～セミナーを開催します～
- 名古屋城 城壁の石
- ちょっと相談～ミニコラム～
- 相談予約方法
- 年初・頭の体操
～確率は、「主観的」？～
- 私的絵画百選②

事務所からのお知らせ ～セミナーを開催します～

11月27日（木）に相続税の改正をうけ、相続に関するセミナーを開催しました。

今回は、皆様にご参加しやすいように1コマは平日の夜間、1コマは土曜日午後、名古屋駅前に設定しました。セミナー時間も2時間とコンパクトにしました。別紙の案内文の通りです。

お気軽にお誘い合わせのうえ、ご参加頂けると幸いです。お知り合いの方で、相続でお悩みの方がいらっしゃいましたら、本セミナーをご紹介して頂けたらと思います。ご不明な点がございましたら、ご遠慮なく、お問い合わせ願います。

～名古屋城 城壁の石～

名古屋市西土木事務所の敷地内には、名古屋城の城壁として使われていた石が3つ置かれています。石の種類は、「砂岩」「花崗閃緑岩（かこうせんりょくがん）」です。

この石には、大名それぞれが刻んだ個々のマーク（刻紋）が入っています。西土木事務所に置かれている石の刻紋は、前田家、鍋島家に関するものと言われているそうです。刻紋の意味は、運び入れたと自慢するため、受け取ったサイン等と言われています。

（当事務所から、徒歩約20分）



ちょっと相談～ミニコラム～

Q 結婚して籍も姓も変わりましたが、実家に跡取りがなく、実の両親が籍も姓も元に戻し、「家」を相続して欲しいと言っています。いい解決方法はあるのでしょうか？

A 今の法律の下で両親の望みを叶えるなら、残念ながら、離婚して、実家の戸籍に戻るか、配偶者の理解を得て、養子になってもらい、養子縁組届けを役所に提出するしかありません。

今の日本で、夫側の姓を名乗るケースが90%以上です。他の国ではお互いが別の姓を名乗ることができ、日本のように共通の姓を名乗らなければならない国はごく少数です。

夫婦別姓を希望する人たちの声が高まっていますが、希望する人が選択して別姓使用できる法改正までには至っていません。

実の親が所有する不動産としての「家」の相続問題については、姓が違っていても相続は可能であり、結婚したからと言って影響が及ぶことはありません。単に姓を残して欲しいだけなのか、両親の真意をしっかりと確かめて下さい。

それよりもあなたに、お子さんがおられるなら、親同士の姓が異なることになると、どちらの姓を名乗るのかといった問題が出てくるので、その点でも慎重かつ冷静な対応が必要です。

相談予約方法

下記電話番号にてご予約ください。お気軽にご相談ください。

1・2月も無料相談会 を行っています。

日程については、お電話にてお尋ね下さい。

☎ 052-684-6290

予約受付時間9:00AM～5:30PM

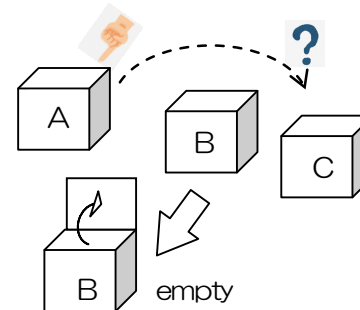
ikedalawpatent@par.odn.ne.jp

年初・頭の体操

～確率は、「主観的」？～

皆様、年末ジャンボ宝くじの結果はどうだったでしょうか。競輪、競馬に100円投じた場合の期待値は、75円であるのに対し、宝くじはわずか40～50円にすぎず、また、一等の確率は、0.00001%とほとんど当たらないことがわかっているのに、宝くじは人気がありますね。

さて、ここでクイズです。あなたの前に3つの箱があり、1つの箱に景品が入っており、当たればあなたのものです。あなたは、Aの箱を選びました。その後、出題者がBの箱を開けて、はずれであることを示しました。出題者の方からは、選んだAの箱から、Cの箱に変更してもいいと言われました。さて、あなたはどうしますか。勿論、出題者は、どの箱に景品が入っているか知っています。



疑い深いあなたは、AかCに入っている確率は、5分5分だ、出題者は自分を誤導しようとしているに違いない、変更して外れると悔しいので、変更はしないと、考えるかもしれません。

しかし正解は、Cへの変更です。Cに入っている確率は、1/2ではなく、2/3となり、最初にAを選んだ時の確率1/3の2倍となります。

これは、モンティ・ホール問題という有名な確率をめぐる問題です。テレビ・ショーで出題されたクイズ問題で、確率2/3という回答に対し、反響が大きく、その後有名な数学者も巻き込み大激論となりました。

Aに景品が入っている場合は、出題者は、ヒントとして、B、Cどちらの箱をあけることも出来ますが、Cに景品が入っている場合は、出題者はBを開けるとい選択肢しかなく、Cに入っている確率が、Aに入っている確率の2倍となります。また、Aを選択した段階で、Aに入っている確率が1/3で、BかCに入っている確率は2/3ですので、Bに入っていないことが分かった段階で、BかCに入っている確率は、Cに入っている確率に凝縮して2/3になるというのが、わかりやすい説明かもしれません。

それでも直感的に腹に落ちない場合は、箱が1,000個あった場合と同じような想定の場合と比較してみると、何が問題なのかクリアになるかもしれません。あなたがAの箱を選び、出題者は、次々と箱を開けていき、998個の空箱を開けていきます。この時、あなたの選んだ箱Aと最後に残った箱に景品が入っている確率は同じように、5分5分と考えますか。最後に残った1個に入っている可能性が、格段に高いと直感が訴えますか。

この場合でも998個の箱を開けてきたプロセスを知らない人にとっては、確率は、やはり5分5分です。

確率というと、客観的で整然としているように思われがちですが、このように「主観的」なものです。

ヒトの持っている直感や確率を含む推論一般には、救い難いほど強固なゆがみがあります。進化の過程で、生存競争のためには、迅速な判断が必要であってそのようになっているものと思いますが、時に社会生活上の大きな障害や誤解を生み、大問題となることもあります。モンティ・ホール問題に納得がいかない人は、『考えることの科学』（市川伸一著、中公新書）をお勧めします。（池田伸之）